

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	24人
② 算数	24人
③ 理科	24人

5 留意事項

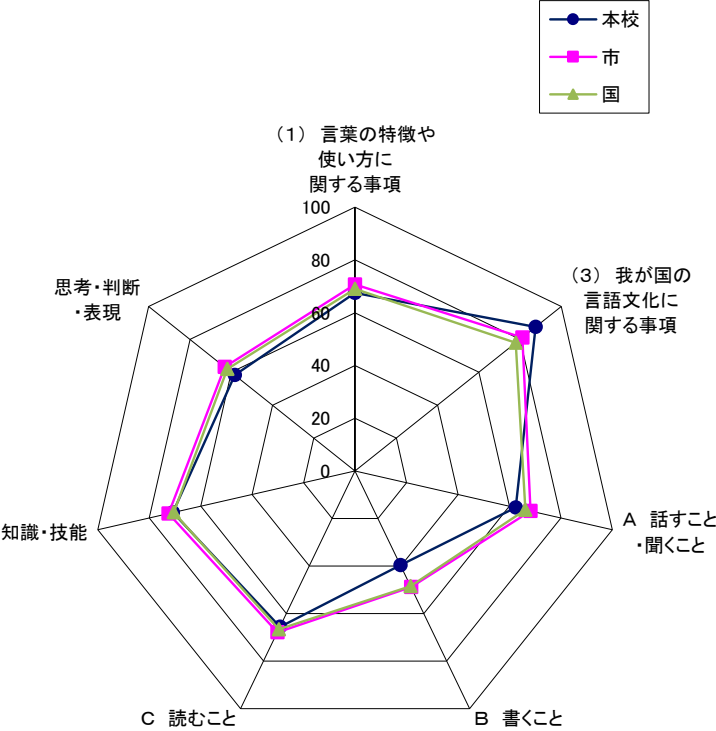
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.5	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.5	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	62.5	68.2	66.2
	B 書くこと	39.6	48.9	48.5
	C 読むこと	65.6	67.9	66.6
観点	知識・技能	70.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	58.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

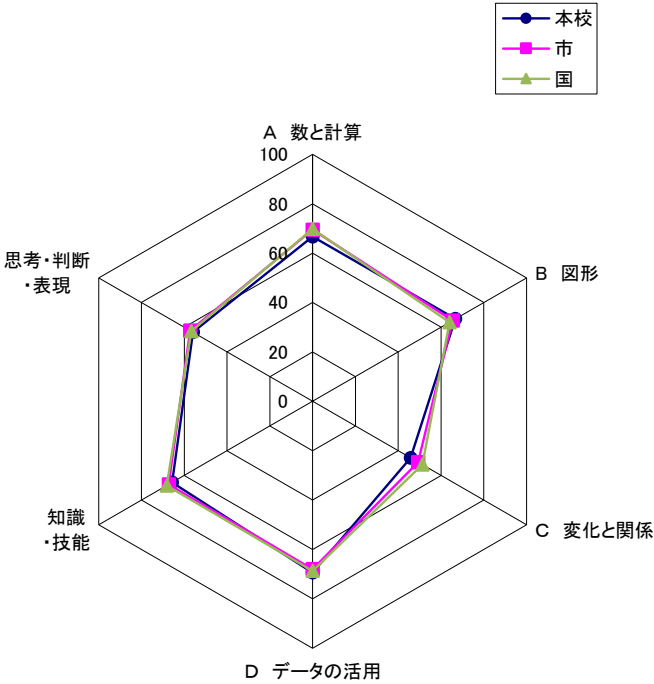
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○それぞれの立場から考えを伝える際の発信についての問題は回答率が高く、選択問題にも慣れていると考えられる。 ●条件のある作文の記述は正解率が低い。今後新聞を読んで意見を記述するなどの練習を重ねていくことは必要であると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後、自分の意見や考えを短文でまとめる練習を繰り返し行うことで、決められた字数の中で自分の意見をまとめて書くことができるようになる。何をどの程度の字数でまとめるかといった、自分の意見を伝える意識が養われることが大切であるため、例えば、新聞のコラム等を活用し、それについて意見を記述するなどの練習を重ねていくなど、繰り返し指導をする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を大幅に上回っている。 ○作文の校正で留意する点を理解していることと、選択制であったことで正答率が高くなったと考えられる。 ●文章を書く際の基本的な配列や仮名の大きさの理解にやや課題が見られる。	・作文の書き方や作文用紙への記述の決まりについて、再確認をすることが必要である。 ・言語の習得のために、声に出して読んだり、読書量を増やしたりして習得に努めることも今後の国語の授業で意識して取り組むようにする。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える選択問題は正解率が高く、日ごろから思考的な生活力が高いと感られる。 ●「ごみ拾い」か「花植え」かを選択してどのように話すかを記述する問題は、全国平均より10ポイント低い。	・話すこと・聞くことの区分であるが、正解率の低い問題は記述であったことから、記述問題の課題が見られる。まず問題となる「ごみ拾い」か「花植え」かを選択する前に、問題点についての解決方法を考え、箇条書き等でメモをして自分の考えを明確にできるような指導をしていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えることはほぼ全国平均と同じ正答率であった。説明文の構成を考える学習を繰り返してきた成果だと考えられる。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、文章のよさを書く問題は、全国平均から約10ポイント下回っているなど、課題が見られる。	・上記の(3)、Aにおいても記述問題での正答率が低い傾向が見られるため、日頃から書くことに慣れることが必要だと考える。授業の振り返りを書くことや日記など、重々しく捉えずとも書く活動を今以上に取り入れることが大切である。また、一度書いた文章を必ず見直して、自分の意見や考えが相手に正確に伝わるかどうかを確認する活動も取り入れて国語力の底上げにつなげていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均とほぼ同等である。 ○物語の人物像や全体像を具体的に想像する問題では、全国平均より19.2ポイントも上回っている。 ●表現の効果を捉える問題では全国平均より17.5ポイントも下回り、課題が見られる。	・物語の人物像や全体像の理解が高い反面、表現の効果を捉えることが課題であるため、文章全体の構成に着目しながら文章を読むことが必要である。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.7	69.5	69.8
	B 図形	66.7	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	45.8	49.3	51.3
	D データの活用	69.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	65.7	67.3	68.2
	思考・判断・表現	56.0	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

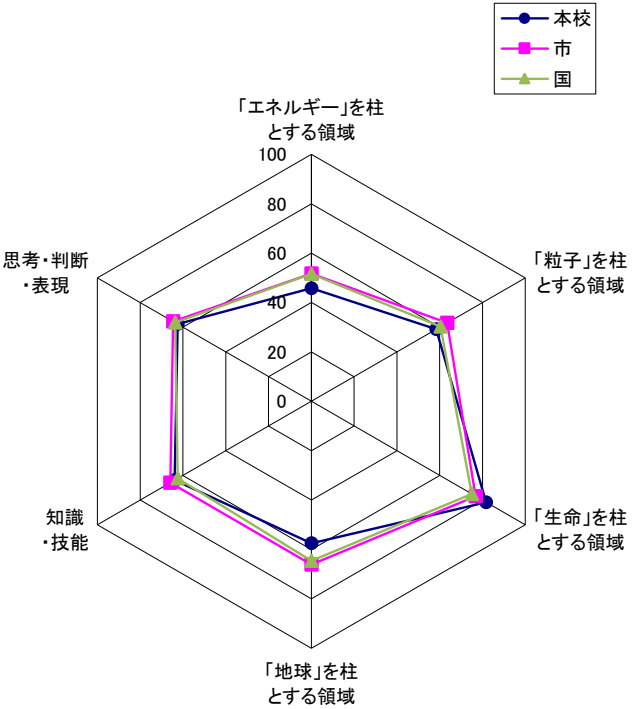
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○ 二つの数の最小公倍数を求めることができるかを問う問題では、正答率が83.3%と、全国平均を11.1ポイント上回っている。 ● ポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方を考え、その答えを式や言葉を用いて記述することができるかを問う問題では、正答率が50%と、全国平均を17.7ポイント下回っている。	・記述されたルールを正しく読み取り、再現することに課題が見られたため、授業の中で読み取りが重要な問題にも取り組ませることで、児童の思考力を育てていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○ 示された手順をもとに作図をすると、どのような図形になるかを答える問題では、正答率が66.7%と、全国平均を9.1ポイント上回っている。 ● ひし形をかくためのプログラムとして適切なものを選ぶ問題では、正答率が54.2%と、全国平均を12.3ポイント下回っている。	・プログラミング的思考を用いて図形を書く手順を表し、説明する活動をするすることで、図形に対する理解を深めていく。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を大きく下回っている。 ○ 割合と基準量から、比較量を求める問題では、正答率が62.5%と、全国平均とほぼ同等の結果だった。 ● 数量が変わっても、割合は変わらないことを理解しているかを問う問題では、正答率が12.5%と、全国平均を8.9ポイント下回っている。	・学習内容を理解することはもちろん、具体的な場面に置き換えて作問するような活動を取り入れることで、児童の思考力を高められるようにしていく。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○ 整理されたデータを基に、目的に応じた読み取りができるかを問う問題では、正答率が70.8%と、全国平均を6.9ポイント上回っている。 ● 示された円グラフから、目的を達成するために適切なものを選び、必要な情報を読み取る問題では、正答率が62.5%と、全国平均を4.3ポイント下回っている。	・他教科とも関連を図りながら、目的に応じた資料選びやデータの選択をする力を育てていく。 ・問題文を正しく読んだり、理解しなければ解けなかったりする問題に取り組むことで、問題文に対する意識を日頃から高めていく。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.8	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	81.7	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	57.5	66.1	64.6
観点	知識・技能	63.9	65.9	62.5
	思考・判断・表現	62.5	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を下回っている。 ○光の性質について、物に日光を当てると、物の色によって暖かさが変わることを実験結果から読み取り、説明する問題では、正答率が37.5%と、全国平均を2.6ポイント上回っている。 ●光の性質について、日光は直進することを理解しているかどうかを問う問題では、正答率が16.7%と、全国平均を11.1ポイント下回るなど、課題が見られる。	・日常で起きている現象に興味関心をもたせ、授業で学んだ知識を生かして身近な現象と関連付けて考えることができるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を下回っている。 ○メスシリンダーという器具を理解しているかどうかを問う問題では、正答率が95.8%と全国平均を18.6ポイント上回っている。 ●物の溶け方について、予想と実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかを問う問題では、正答率が50.0%と、全国平均を12.8ポイント下回るなど、課題が見られる。	・観察、実験などの結論を導き出すときに、予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して、自分の考えを見直したりしながら、多面的に問題を解決できるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を上回っている。 ○ナナホシテントウを対象として、昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であることを説明するための視点を問う問題では、正答率が91.7%と、全国平均を18.6ポイント上回っている。 ●ナナホシテントウを対象として、観察の記録と新たに追加された他者の観察を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかを問う問題では、正答率が66.7%と、全国平均を0.8ポイント下回るなど、課題が見られる。	・観察結果をきちんと記録するとともに、そこから考えられる考察を丁寧に行えるよう指導していく。また、結果を分析する際には、小グループ等で意見交換を行う活動を取り入れ、より多角的な見方ができるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を下回っている。 ○冬の夜の気温変化を対象として、観察などから得た結果を、結果からいえることは、提示された結果のどの部分を分析したものなのかについて問う問題では、正答率が58.3%と、全国平均を12.8ポイント上回っている。 ●鉄棒に付着していた水滴と氷の粒の異なる二つの現象を対象として、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものなのかについて問う問題では、正答率が41.7%と、全国平均を20.3ポイント下回るなど、課題が見られる。	・習得した知識を、次の学習や生活に生かすことができるようにすることや、科学的な概念を理解して説明できるようにしていく。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童が100%であった。日頃の学校生活での声掛けや児童指導の成果だと考えられる。今後も、いじめを無くしていけるような活動を学校全体として取り組んでいきたい。

○「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童が91.7%であり、全国平均を52.3ポイント上回っている。今後も自己肯定感を高められるような声掛けや、学級として個人を認めてあげられるような取り組みを継続して行っていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PCやタブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という問いに対して「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は75.0%であり、全国平均を48.3ポイント上回っている。学校としてICTを積極的に使用してきた成果が表れているため、今後も継続して取り組んでいくとともに、ICTの効果的な使用についてもさらに考えていきたい。

○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合は70.8%であり、全国平均を39.8ポイント上回っている。日頃の学級活動を通して、自分の目標や将来の夢と紐づけて具体的に努力点を絞って取り組ませている成果だと考えられる。今後も、キャリア教育を充実させ、児童のやる気を高めていきたい。

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童が100%であった。日常生活と結び付けて指導を行ってきた成果だと考えられる。国語だけではなく、他の教科でも社会に出たときに役立つと思えるような指導を行えるよう研究していきたい。

●「毎日同じぐらいの時刻に起きていますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合は87.5%であり、全国平均を2.9ポイント下回っている。生活リズムが安定していない児童が少数であるが見られるので、家庭と連携した指導を今後も継続して行っていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか」という問いに対して1時間以上読んでいる児童の割合は0%と、全国平均を17.3ポイント下回っている。読書の楽しさを伝えられるよう、家庭や図書館司書と連携し、児童が少しでも本と触れ合える機会を増やしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・まとめ・振り返りの充実	学校全体で、めあて・まとめ・振り返りの板書を揃え、ノートに書く指導をしている。	国語、算数、理科の全ての教科で「授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が90%以上と、全国の割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめるができるかどうか問う問題の正答率が、全国の正答率を下回っていた。	問題や資料から読み取ったことを正確に表記したり、伝えたりする活動の充実	問題点についての解決方法を考え、箇条書き等でメモをして自分の考えを明確にできるような指導をしていく。